

追跡

— あの質問のゆくえ —

2世桜を交流にいかせ

薬師桜の2世木が国内や外国にも植樹され、3,000本になると聞きます。植樹された地域の一覧などを整備して、白鷹の情報発信、交流拡大に活用してはどうか。

平成17年12月定例議会

町長答弁

「桜交流」を進める

送付先や植栽地を把握してデータベース化し、交流資源として活用しながら市町村や寺院などとの「桜交流」をすすめるほか、古典桜の里として一層特徴あるまちづくりを検討していきます。

どうなった



増殖されている2世苗木

古典桜の里づくり

薬師桜や釜の越桜の2世苗木を増殖している方などのご尽力により、全都道府県のほか海外にも植樹されています。これらの贈り先について、これまで一覧にするなどしてきました。

今のところまだ大きな交流には至っていませんが、草の根交流として植栽先を訪れたり、町内に植えた桜の成長を見に再来町していただいたりしています。

町内でも地域づくりの一環として桜の植栽活動を行う地区があり、これら若い桜の管理方法についても研修会をするなどとして、古典桜の里づくりをすすめていきます。

がんばっています



シリーズ4 加藤 嘉智さん

Q 就農した動機と時期

A サンファームでバイトをしていて作物を作ることが楽しくなり、3年前に就農しました。

Q 就農して感じたこと

A 大変なことが多い分、楽しみ・喜びが感じられます。

Q 将来の夢

A なんでもこなせる百姓になることです。



編集後記



厳しく長い冬も終えて、桜咲く春、大きな夢と希望を抱き新たなステージへと旅立つ春、小・中・保育園の卒業式、卒園式に出席してあらためて家庭、学校、地域の役割の重要さを再認識しました。別れは出会いの始まりといえ、感極まり涙する卒業生を見たとき「教育は家庭の教えで芽を出し、学校の教えで花が咲き、世間の教えで実を結ぶ」今から112年前の明治31年に埼玉県のある高等学校が各家庭に配った「家庭の心得」が思い浮かんだ。また、予想をはるかに超える少子化の現実を今さらながら感じずにはいられない。中学生までの子どもの医療費無料化、妊婦の通院費用を一人3万円補助するニコニコマタニティライフ応援事業など少しでも少子化に歯止めがかかるのか、新年度の町の取り組みに期待を込めながら、注視していきたい。

(青木)

発行責任者・議長
船山 仁
広報委員
委員長 青木 彰榮
副委員長・編集長 関 千鶴子
委員 守谷 丹吾
委員 菅原 隆男
委員 佐藤 京一
印刷・長谷川印刷